

第7回 柏市健康福祉審議会 市立病院事業検討専門分科会資料 事例紹介(医師確保)

平成29年3月23日
株式会社システム環境研究所

1. 医師確保の取り組み(例)

区分	取組項目(例)	取組概要(例)
意欲	■ 医師育成支援	■ 専門研修施設(基幹または連携)としての認定を受けるとともに、専門研修プログラムの充実(必要症例数の確保やローテーション計画等)を図りながら、専門医を目指す若手医師にとって魅力ある病院を目指す取組み。 ■ 民間団体との提携により、当該病院で働きながら臨床研究や海外留学を希望する医師の確保・支援する制度を創設する事例もある。
	■ 医療内容	■ 先進医療や在宅医療、予防医療領域等における全国のモデルとなるような取組みや調査研究事業(医工連携含む)へ参画することにより、医師にとっての魅力ある病院づくりを目指す取組み。
	■ 医師業務負担の軽減	■ 医師にとって負担が重いとされる診断書や意見書作成、オーダーリングシステムや電子カルテ入力等の事務作業に対する医師事務作業補助者の配置。 ■ 医師が担っている検査手順や入院に関する説明、診療行為(薬剤投与量の調節や指導等)について、院内の多職種連携によって業務分担する取組み。 ■ 救急外来患者数が多く、夜間においても昼間帯と同程度の診療を提供する必要がある診療科に対する医師の交代制勤務の導入。 ■ 短時間正規雇医師や非常勤医師の外来診療、当直等への活用。※ 女性医師の短時間雇用 ■ 初診の選定療養費の増額や初診患者の診療を主目的とした外来診療の規模縮小。
経済	■ 給与制度の見直し	■ 初任給調整手当の見直し ※ 公立病院において、民間病院との給与格差を是正するために支給する手当 ■ 特殊勤務手当の新設や見直し ※ 分娩取扱手当や救急勤務医手当、心臓カテーテル手当、透析手当等、病院特性に応じた手当が存在する。
	■ 奨学金制度の創設	■ 将来、自院の医師として勤務する意志のある医学生に対して、修学に必要な奨学金を貸与し、医師免許取得後に自院に勤務してもらう制度。 ■ 「卒業後、直ちに当該病院で2年間の臨床研修を開始して、それを修了した場合」や「2年間の臨床研修修了後、引き続き当該病院医師として勤務した場合」等に対して、奨学金の返還を免除する仕組みを設けることもある。

1. 医師確保の取り組み(例)

区分	取組み項目(例)	概要
流通	■ 大学医局への依頼 ■ 寄付講座の開設	■ 医師を派遣している大学に寄付講座(外部から委託された資金をもとに、開設講座を組織し、研究活動)を設けることで安定的に医師を確保する取組み。 ※ ここでは医師を派遣している大学に寄附を行い、大学が地域医療に関する研究を行う過程で、教育研究活動の一環として病院等へ医師を派遣するシステムを意味。
	■ 医師紹介・スカウト会社の活用	■ 転職を希望する医師の紹介を受けるのみならず、医師の転職市場のトレンド把握や優秀な医師を招聘するためのノウハウを得ることも含めた医師紹介会社との連携。 ■ 高い診療技術やマネジメント能力のある中堅・ベテラン医師を招聘するためのスカウト会社の活用。 ■ 医師紹介会社等の連携窓口としての医師招聘企画室の設置や医師採用担当者の配置。
広報	■ HP等による公募	■ 医師向けのオリジナルパンフレットの制作や採用ホームページの開設による情報発信。 ※ 医師向けの情報発信にあっては、「自院の強みと働くメリット」を明確に伝える(「ブランディング」と呼ばれる取組み)必要がある。
	■ ライフスタイルアピール	■ 勤務地について、「東京から新幹線で2時間ちょっと。観光資源豊富な黒姫で地域医療に貢献し、自然を楽しむライフスタイルを実現しませんか?」といった観光名所であることのアピール。 ■ 臨床研修先として若い医師が週2日の研究日を活用し、働きながら学べることやリタイア後には自治体所有の別荘地を廉価で紹介できるといった、年齢・ライフステージに応じた様々な働き方まで提案することもある。

1. 医師確保の取り組み(例)

※ 民間団体との連携による取り組み

日本から 橋本市民病院から

世界へ 夢の実現への第一歩

「大リーガー医育成プロジェクト」

～ 集え、未来の大リーガー医たち ～

留学費 最大1,500万円助成



【大リーガー医助成第1号 橋本市民病院 内科 庄嶋 健作】

広島大学医学部を卒業後、都立駒込病院で初期臨床研修・後期臨床研修を行い、大阪大学大学院で学位取得しました。この度、ご縁があって、橋本市民病院に参りました。将来、基礎医学と臨床との架け橋となるような存在を目指す私にとって、一般内科の知見を広げつつ、研究を継続できることや、日米医学医療交流財団のサポートを受けられることは非常に魅力的です。微力ながら橋本地域の医療に少しでも貢献しつつ、海外留学を視野に、精進していきたくと思っています。

問い合わせ先

公益財団法人 日米医学医療交流財団 事務局
TEL 03-6801-9777 E-mail: info@janamef.jp
http://www.janamef.jp

または 橋本市民病院 事務局

TEL 0736-34-6123 E-mail: shomu@city.hashimoto.lg.jp
http://www.hashimoto-hsp.jp/

詳しくは、
QRコードへアクセス！



「橋本市民病院 臨床研究支援プログラム」フェロー募集

医師が働きながら臨床研究を学び実践する



研修日
(平日1日)・学費・学習
をサポート



iHope
International

趣旨

橋本市民病院は、認定NPO法人健康医療評価研究機構 (iHope+) と提携し、臨床研究の人材育成のために臨床研究を働きながら学ぶことを希望する医師を募集します。

*iHopeは医療者の臨床研究の学習や実践を支援する認定NPO法人です (医療関連NPOで2番目に認定NPOに認定)

応募資格・募集人数・期間

応募資格

- (1) 2017年4月から橋本市民病院に勤務できる医師
- (2) 後期研修を終えた若手内科医師
- (3) 診療と直結した臨床研究に関心のある向上心と熱意のある医師

募集人数 3～4名/年 期間 1～3年間

処遇

・週1日(平日) 当該医師の学習のために診療業務を免除。(業務はシフト制とし学習日は病院からの呼出しはなし)

・期間中、正職員として雇用し、病院の規定に基づき給与を支給し、福利厚生制度を適用します。
・原則として総合内科で診療していただきます。
(個人の要望があれば調整します)
・プログラムの管理指導者及びアドバイザーを院内、院外各一名設置し、学習の環境や質を管理します

応募締め切り・提出書類

提出書類 申込書・履歴書・医師免許証・卒業証書のコピー

応募締切 2017年3月31日(金) 必着

問い合わせ先: 橋本市民病院 事務局総務課

TEL 0736-34-6123

Email shomu@city.hashimoto.lg.jp



現在3名の総合内科医がJohns Hopkins大学 MPH program に在学中

1名が臨床研究、遠隔学習プログラムを卒業

プログラムの概要

以下2つのプログラムを提供可能です。当病院に勤務中は下記の授業料を当病院が全額負担します。(返還不要)

① Johns Hopkins大学 MPH プログラム (英語)

- ・JHSPHのMPH取得可能 (3年間, 80単位取得必要)
- ・JHSPHが提供する講義の遠隔配信・受講
- ・年1週間のJHSPHによるSchoolingを京都で受講可能

※休学の条件としてTOEFL iBT 100点 または IELTS全科目7.0以上必要
※オプションとして、日本語による学習支援・チューターも可能 (有償)

② 臨床研究遠隔学習プログラム (gMAP) (日本語)

- ・臨床研究デザインと統計学の系統講義の遠隔配信
- ・臨床研究計画立案や解析のスキルを習得のための演習
- ・実際の研究実施と指導 (研究実践に必要なデータベースの構築と提供に橋本市民病院が協力)
- ・教育指導には、iHopeの学術諮問委員である京都大学 東北大学、大阪大学、等エキスパート教授陣が協力します

病院概要

- ・300床規模の2次医療圏の中核病院
- ・診療人口約10万人をカバー
- ・都市部へのアクセス <難波まで電車で40分>